



かなやま

ふるさとを愛し、
自信と誇りをもち
未来を拓く子どもの育成

学力・心力
体力・労力

今回の学校だよりは、2学期開始、ビブリオバトル、平和集会・ヤマメ放流、学校保健委員会、9月の行事予定、なるほどthe World!です。

文責 校長 横山

自分らしく輝く、実り多き2学期へ

充実した夏休みを過ごせたでしょうか。「思い描いたとおりの夏になった」という人も、少しやり残したことがある人も、大切なのはここからの切り替えです。いよいよ2学期、心と体の準備はできていますか。

今学期は、職場体験やゴルフ体験をはじめ、文化発表会、芋掘り、クサック訪問団との国際交流、ふれあい祭り、少年の主張大会、村内一周駅伝大会など、成長の機会となる行事が目白押しです。

一つひとつの挑戦を通して仲間との絆を深め、自分の新たな可能性を広げていきましょう。皆さんが笑顔で登校し、生き生きと活躍する姿を楽しみにしています。元気な姿で会いましょう！

校内ビブリオバトルを開催します

このたび、生徒会文化部の呼びかけで校内で「ビブリオバトル」を開催することとなりました。

「ビブリオ (Biblio)」とは、ラテン語やギリシャ語で「本」や「書籍」を意味する言葉です（バイブル＝聖書やライブラリー＝図書館などの語源でもあります）。つまり、ビブリオバトルとは、直訳すると「本を使った対戦（書評合戦）」という意味になります。

具体的なルールはとてもシンプルです。

- 1 発表者が自分のお気に入りの本を持ち寄る
- 2 決められた時間内でその本の魅力を自分の言葉で紹介する
- 3 「どの本が一番読みたくなったか」を参加者全員の投票で決め、「チャンプ本」を選ぶ

今回、この取り組みを行うことには大きなねらいがあります。

1つ目は、「読書へのきっかけづくり」です。仲間の熱のこもったプレゼンを聞くことで、新たな本や知的な世界への扉が開かれます。

2つ目は、「伝える力（表現力）の育成」です。限られた時間の中で自分の思いや考えを整理し、自分の声で相手に届けるトレーニングになります。

そして3つ目は、「深い他者理解」です。「なぜこの本を選んだのか」を知ることは、仲間の価値観や新たな一面を知り、お互いを尊重し合う心へとつながります。少人数だからこそ、生徒一人ひとりが主人公です。自らの思いを言葉にし、仲間の声に耳を傾ける体験を通して、「自信と誇り」を胸に未来を開く力を育んでいきたいと思います。ご家庭でもぜひ「どんな本を紹介するの？」と話題にしてみてください。



平和集会・ヤマメの放流を行いました

8月6日（水）、全校で平和集会を実施しました。集会では、3年生が中心となり、広島への修学旅行で実際に見て学んだことや事前学習で深めた知識を堂々と発表しました。悲惨な歴史を直視し、自分たちの言葉で平和の大切さを伝える姿には、最上級生としての頼もしさと力強い意思が感じられました。

発表後は、全校生徒で折り鶴を折り、平和への祈りを込めた掲示物を制作。最後に、全員で声を合わせて平和宣言を唱和し、未来にわたって平和を守り続けることを固く誓い合いました。

平和集会の後は洞鳴の滝へと移動しました。地域の「三修会（さんしゅうかい）」の皆様が温かく準備してくださったヤマメの放流体験を実施しました。

豊かな自然の中で元気に泳ぎ出すヤマメの姿に触れ、命の尊さや地域とのつながりを体感する貴重な時間となりました。平和を願う心と、故郷の自然や人々に感謝する心を改めて深める一日となりました。ご協力いただきました三修会の皆様、心より感謝申し上げます。



学校保健委員会を行いました

7月末に学校保健委員会を開き、健康診断の結果等を学校医の先生方に総合的に見ていただきました。総合的に見て、みんな健やかに大きく成長しているとのこと。しかしながら、治療しなければならないものをそのままにしまっていないか心配との声が上がりました。例えば、「虫歯」をそのままにいませんか？歯の健康は、全身の健康につながっています。虫歯がひどくなると抜歯するしか治療の方法がなくなってしまうそうです。歯を失わないためにも、早めの治療を心掛けてほしいです。



9月の行事予定

1日（火）2学期始業式

いじめ・いのちを考える日

2日（水）生徒・生活朝会

給食開始

3日（木）東部教育事務所訪問

4日（金）ビブリオバトル予選（学年）

7日（月）フッ化物洗口(1)

9日（水）前期期末テスト

④防犯教室

10日（木）前期期末テスト

11日（金）前期期末テスト

14日（月）フッ化物洗口(2)

生徒会委員会

佐賀市教科等部会授業研究会（道徳）



15日（火）職場体験（2年生）

16日（水）職場体験（2年生）、
ホンホンさん読み聞かせ

17日（木）文化発表会練習開始

18日（金）三瀬っ子タイム

19日（土）三瀬旗少年剣道大会

20日（日）県一斉部活動休養日

21日（月）敬老の日

22日（火）国民の休日

23日（水）秋分の日

24日（木）実力テスト（3年）1日目

25日（金）実力テスト（3年）2日目

28日（月）フッ化物洗口（3）・各部委員会

29日（火）3年生・職員写真撮影

30日（水）生徒・生活朝会、前期終了



甲子園で敗退したチームの球児が「甲子園の土」を持ち帰る風習はいつ始まったか知っていますか？

なるほど the World!

起源や時期については諸説ありますが、代表的なエピソードと歴史的背景は以下の通りです。

1. 初代・旧制勝山中（岡山）の川州一夫選手のエピソード（1937年説）

最も有名な起源説の一つです。1937年（昭和12年）の第23回全国中等学校優勝野球大会で、初出場した勝山中の投手・川州一夫選手が敗退後、グラウンドに泣き崩れました。その際、師事していた加藤三郎監督から「泣くな、来年また来ればいい。記念に土を拾っていけ」と声をかけられ、ポケットに土を入れて持ち帰ったのが始まりとされています。

2. 川上哲治選手（熊本工）のエピソード（1937年説）

同年の1937年、のちにプロ野球の「打撃の神様」と呼ばれる熊本工業の川上哲治選手が、夏の甲子園決勝で敗れた際、投球マウンドの土をユニフォームのポケットに入れて持ち帰ったという説もあります。川上選手は自宅の庭にその土をまいたと伝えられています。

3. 阪神甲子園球場・グラウンド整備の伝承（1920年代説）

1925年（大正14年）の第11回大会で、優勝した屋代中（長野）の選手が「甲子園の土は素晴らしい」と感動し、持ち帰ったという記録も一部に残っています。



戦前の時点では「敗退した悔しさや記念」として個人が個別に行っていましたが、戦後になりメディアで大きく報じられるようになると、高校球児たちの「夏の甲子園の伝統・儀式」として全国的に定着していきました。なお、かつては優勝校も持ち帰ることがありましたが、現在では「また春・夏に戻ってくる」「全国制覇の誇りがある」といった理由から、優勝校・準優勝校の選手は土を持ち帰らず、敗退したチームのみが行うのが一般的となっています。